

令和元年

第5回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

令和元年第5回仙北市議会定例会 市政報告

令和元年第5回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、平成30年度の一般会計決算についてです。

歳入総額は208億3,809万8千円、歳出総額は200億5,844万8千円、歳入歳出差引額は7億7,965万円の黒字です。翌年度へ繰り越すべき財源総額2億380万4千円を差し引いた実質収支額は、5億7,584万6千円の黒字です。財政状況を示す各指標については、経常収支比率は99.5%で、昨年度との比較で4.5ポイント悪化したものの、経常一般財源比率は97.4%で前年度と同率を維持しています。また公債費比率は5.8%となり0.1ポイントの改善、公債費負担比率は14.2%で0.2ポイントの改善ができませんでした。財政の健全化を判断する指標として、議会に報告し公表することになっている実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率については、公営企業の資金不足比率と併せ、監査委員による審査を経た後に、本定例会に追加提出し、お示しします。

次に、一般会計補正予算についてです。

第2号の補正額は、8億24万2千円で、これに既定予算を加えると、補正後の額は220億616万円となります。主な事業としては、ふるさと納税ふるさと便事業費、ふるさと仙北応援基金積立金、児童扶養手当給付費、認可保育園等管理費、教育・保育施設給付費、生活保護事務費、道路維持補修費、冬期交通対策費、臨時地方道整備事業費、辺地対策事業費、生保内公園施設維持管理費などです。地方債補正は変更です。

それでは、各部局等の主要事項並びに諸般の状況を報告します。

【総務部】

◇総合教育会議について

8月29日、令和元年度第2回総合教育会議を開催しました。案件は、生保内小学校の改修についてです。

平成30年度の本市の出生者数が100人を割り98人となったこと、今年度の出生者数の見通しでは前年度を下回ることが予想されることから、今後ますます児童・生徒数の減少が懸念されます。

この現実を受け、現在予定されている生保内小学校の長寿命化事業をこのまま進めるべきか、見直しが必要なのか、ほかの方法はないのか等々、様々な角度からの検討が必要という考えから、教育環境を損ねることなく、将来を見通した学校の改修計画について、多様な意見交換を行いました。

◇債権管理条例について

市の債権管理については、未収金の解消に向けて一生懸命に取り組んでいるところです。更なる債権管理の適正化に向けて、仙北市債権管理適正化検討委員会を設置し、この中で私債権の管理を主眼に置いた債権管理条例についての検討を始めました。年度内には原案を作成し、議員の皆様にお示ししたいと考えています。

◇市税等の収納率について

7月末現在の市税等の滞納繰越分収納率は、前年同月比で普通税が0.8ポイント減の7.5%、国民健康保険税が0.6ポイント増の11.8%、後期高齢者医療保険料が0.6ポイント減の12.3%です。

また、現年度課税分は、前年同月比で普通税が0.5ポイント増の55.8%、国民健康保険税が2.3ポイント増の19.8%、後期高齢者医療保険料普通徴収分が4.8ポイント増の23.7%となっています。引き続き収納率の向上に全力で取り組みます。

◇台湾トップセールスについて

佐竹知事や県内の各首長、青柳議長などと共に、8月21日から24日の4日間、台湾を訪問しました。今回も秋田県と仙北市独自ミッションの二本立てでした。

仙北市独自ミッションとして、台湾日本関係協会へ表敬訪問し、民間企業の相互進出のサポートをお願いしました。また、台日産業連携推進オフィス(TJPO)にご協力をいただき、農業と食品加工業で観光客の誘致に成功をしている宜蘭(ギラン)県の2ヶ所の観光工場を訪ね、経営の理念や経済交流の可能性等について協議を行うことができました。

また、台湾高雄市と秋田県の国際交流協力覚書(MOU)締結式に出席し、葉匡時(ヨウ キョウジ)高雄市副市長と相互の企業の経済交流について、重要な意見交換を行うことができました。

◇総合戦略の改定について

平成28年に策定した総合戦略について、6月に国は第2期「総合戦略」の策定に向けた基本的な考え方を示しました。

仙北市も、国・県の総合戦略を勘案して改定を行いますが、幾つかの要因で策定期間を1年度延長したいと思います。その理由としては、第2次仙北市総合計画後期計画を来年度に本格改定する予定があること、また、出生者数が年間で100人を切る少子化、高齢化比率が41%を超える超高齢化という状況などを踏まえ、今までとは視点を変え、大規模な方向転換が必要だとの判断があることなどです。近い将来の姿は、様々な統計数値や予測を分析すれば、縮小社会で起こる不都合はさらに加速し顕在化します。この現実一刻も早い対応が必要です。

今年度は本格改定に向けた準備期間と位置づけ、必要な施策を追加するなどの対応を行います。

◇地域おこし協力隊の着任について

9月1日、インバウンド対応も含めたグリーンツーリズム推進を任務に東風平蒔人(こちひら まきと)さんが、仙北市地域おこし協力隊に着任し

ました。これで現在着任中の地域おこし協力隊は4人となり、それぞれの分野から地域活性化活動を行います。活躍を心から祈念しています。

◇仙北市ふるさと納税について

ふるさと納税は現状実績で1億円を超え、昨年度をはるかに上回るペースで寄附をいただいています。そのため、当初の寄附想定額2億円を4億円にしたいと考えています。その要因として、6月下旬から市内産の新米を返礼品メニューに追加したところ、大変な人気となり、過日は「楽天」のお礼品ランキングで1位でした。また、8月からは大手ふるさと納税サイト「ふるなび」での受け付けも始まり、さらに納税いただけるものと期待しています。

◇仙北市防災の集いについて

8月10日、仙北市防災月間の一環として、角館地区を会場に仙北市防災の集いを開催しました。(株)タカヤナギワンダーモールの駐車場をお借りして防災フェアを開催し、湯沢河川国道事務所、玉川ダム管理所、警察、消防からご協力をいただき、車両の展示や地震体験車両等の体験などで賑わいました。

また、小勝田地区では、桧木内川が氾濫して避難勧告が発令されたという想定で避難訓練を実施しました。100人余りの市民が参加し、それぞれ避難所へ避難し、避難経路の確認等を行いました。参加された市民の方々には、消火器操作訓練や避難所での新聞紙スリッパ作成、非常食の試食などを体験していただきました。今後も継続して市内各地で同様の訓練を実施します。

◇火災事案について

6月23日に角館町上新町で住宅兼店舗の火災、同月26日には田沢湖梅沢で住宅及び作業場の火災、7月9日には角館町下延でゴミ焼き不始末による火災、8月14日には田沢湖小松で作業場の火災と、2か月足らずの間に4件の火災が発生しています。幸いにも死傷者は出ていませ

ん。

◇山岳遭難事案について

山岳遭難事案が3件発生しています。7月19日に八幡平の県境付近の本市側で登山者が怪我をし、岩手県の防災航空隊との連携により、救出され盛岡市内の病院へ搬送されています。

7月30日に秋田駒ヶ岳において、滑落により怪我をした登山者を警察、消防の連携で救助しています。

8月18日には西木町上桧木内へキノコ採りに出かけた市内の男性が帰宅しないとの連絡が家族からあり、警察、消防、消防団、猟友会等が捜索を行いました。21日で捜索は打ち切りとなりましたが、知人友人等による捜索が継続され、27日に本人のご遺体が発見されました。心からお悔やみ申し上げます。

◇仙北市防犯協会角館支部の表彰について

仙北市防犯協会角館支部が、地域の行事、祭典等における防犯活動、少年非行防止活動等で安全安心なまちづくりに貢献したとして、東北防犯協会連絡協議会長から優良防犯団体表彰を受けました。この度の受彰は、日頃の活動が認められたものです。これまでの活動に感謝し、心よりお祝い申し上げます。

【市民福祉部】

◇障がい者自立支援医療制度にかかる自己負担上限額の認定誤りに ついて

障がい者自立支援医療制度のうち更生医療受給者に対する自己負担上限額について、事務処理時に認定誤りがありました。対象者は2人です。本来の自己負担上限額よりも低い額で認定してしまったことから、実際の自己負担との差額284,753円が発生しています。2人の方には、ご自宅を訪問し、事情を説明のうえお詫びし、差額のご負担についてご理解をいただいています。

大変に申し訳ありませんでした。今後は、制度の適切な運用とチェック機能を強化し、再発防止に努めます。

◇プレミアム付き商品券事業について

今年10月の消費税率の引き上げによる低所得者や子育て世代の消費に与える影響の緩和と、地域における消費の喚起、下支えを目的として、プレミアム付きの商品券を販売する事業が全国一斉に行われます。市では対象と見込まれる6,650人の方に、8月上旬から事業のお知らせと商品券購入引換券交付申請書を送付しています。

現在、対象者からの申請を受け付け、購入引換券の送付に向けて準備を進めています。申請が不要な子育て世代の対象者と併せて9月下旬には発送する予定です。

10月1日から商品券を購入いただき、翌年の3月末までに市内で応募のあった店舗にて利用いただくこととなります。

◇幼保連携型認定こども園の法人移譲の経過について

西木地区の幼保連携型認定こども園の法人移譲に先立ち、7月14日、にこにここども園及びひのきないこども園に勤務する仙北市社会福祉協議会の保育士や調理師等、すべての職員が社会福祉法人はなさき仙北の任用試験を受験し、8月1日に全員の合格が発表されました。

1月以降、はなさき仙北も含めて保護者説明会や入園説明会を実施します。保育園を利用する園児や保護者の方々が、安心して園を利用できるよう法人移譲に関する事務を進めます。

◇幼児教育・保育の無償化について

消費税率の引き上げによる財源を活用し、子育てを行う家庭の経済的負担の軽減を図るため、10月1日から幼児教育・保育の無償化を実施します。無償化は満3歳から5歳の小学校就学前までの子供と、0歳から満2歳までの住民税非課税世帯の子供で、保育の必要性がある子供及び第3子以降が対象となります。保育料無償化に伴い、国では副食費及び

行事費について保護者負担としていますが、市ではそれらを全額助成することにしました。なお、これまで市では、第2子以降に対して保育料を独自助成してきましたが、この事業も引き続き継続します。

本定例会に、関係議案を提案しています。ご審議をよろしく願います。

◇にしき園運営検討委員会の設置及び開催について

平成30年第7回仙北市議会定例会で介護老人保健施設にしき園の民営化の凍結について報告しましたが、今後のにしき園の民営化や運営形態について、市に対し提言いただくことを目的とした機関として、「にしき園運営検討委員会」を設置します。

検討委員会の構成委員は、大曲仙北医師会、大曲仙北歯科医師会、秋田県健康福祉部長寿社会課等、関係7団体から7人を委員にお願いしたく準備を進めています。なお、1回目の検討委員会は10月上旬に開催する予定です。

◇国民健康保険税率の改正について

平成30年度国民健康保険特別会計(事業勘定)は、翌年度繰越額が2億3,700万円となり、国民健康保険財政調整基金に1億5,000万円積み増し、基金の合計額は3億6,200万円となりました。要因として、国保の広域化により、保険給付費が全て県から交付されることになったことに加え、収納推進課設置等による税徴収率の向上や、国・県の努力支援制度に積極的に取り組んだことで特別交付金が大幅に増額されたものです。

繰越金と基金積立の合計額は5億9,900万円となり、先進医療などの高額な療養給付に対応できる基金積立額となりました。今後、応益・応能負担のバランスを試算し、税率の引き下げを検討します。

【観光商工部】

◇相模鉄道駅等での「山の楽市」の開催休止について

昨年度まで相模鉄道駅等で開催を重ねてきた「山の楽市」は、催事場が変わったこと等により、利用条件が厳格化したほか、全体的に面積が縮小となり、売り上げも減少してきました。

これらを踏まえ、再三にわたり相模鉄道株式会社へ利用条件の緩和や催事場面積の拡大、他駅での開催を申し入れてきましたが合意に至らず、実施主体の仙北市商工会や出店者との検討を重ねた結果、十分な観光PRを行えないことや物産販売額の好転が難しいと判断し、今年度、相模鉄道駅での開催を休止することとしました。

今後も相模鉄道沿線での物産展の開催について検討していきたいと考えていますが、これに代わる首都圏での物産展として、10月18日から20日までの3日間、東京都町田市で「山の楽市in町田(仮称)」を開催する準備を進めています。

◇前田製管株式会社角館工場の永年立地企業表彰について

前田製管株式会社角館工場が、秋田県誘致認定企業として50年にわたり雇用の維持・拡大に尽力していること、また、地域経済活性化に貢献していることが認められ、明日9月4日、秋田県企業誘致推進協議会から永年立地企業表彰を受けることになりました。

◇国際交流員の着任について

まち・ひと・しごと創生本部が実施する「外国人材による地方創生支援制度」を活用し、国際交流員の募集を行い、9月1日付けで国際交流推進室に台湾人の黄敏(ファン ミン)さんが着任しました。増加する台湾人観光客の受入態勢整備や、海外に向けての情報発信、通訳業務など多方面で活躍していただけると考えています。黄敏さんには先日の台湾トップセールスでも同行をお願いし、通訳をしていただきました。高い語学力を持った方です。任期は令和4年3月末までとなっています。

【農林部】

◇本年産米の作況について

民間調査会社が発表した7月末現在の本年産米の収穫予想によると、作況指数(平年=100)は、全国平均が100の「平年並み」となっています。

6月上旬から7月中旬にかけて、低温・日照不足による生育不足が懸念されましたが、梅雨明け後は全国的に好天に恵まれ、特に、北海道や秋田、山形など5道県が102の「やや良」の見通しとなっています。

今後も気象情報に注意し、ほ場の状況を確認しながらの管理や病害虫防除の徹底に努め、良質米生産が図れるよう期待しています。

◇第97回秋田県畜産共進会について

8月25日、由利本荘市のあきた総合家畜市場を会場に、第97回秋田県畜産共進会が開催されました。市内の5農家から7頭が出品され、田沢湖小松の小原洋一(おはら よういち)さんの「かなこ号」が、第1部肉用牛(黒毛和種)第3類(若雌の2)で優等賞を受賞し、さらに肉用牛の部で最高位賞である農林水産大臣賞及び秋田県知事賞を受賞しました。市内畜産農家と仙北市和牛生産改良組合での長年にわたる家畜資質や飼育技術の向上等、努力を重ねた結果だと感じています。

以上、主要事項並びに諸般の報告を申し上げました。本定例会に提案している案件は、報告関係1件、条例関係7件、予算関係3件、決算認定関係14件、その他3件、諮問3件の計31件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。